

発行／公益社団法人 相模原法人会青年部会
〒252-0236 相模原市中央区富士見6-13-16
TEL.042-755-3027 FAX.042-753-3273
URL. http://www.sagamiharahojinkai.or.jp
発行責任者／林 大介(青年部会長)
編集責任者／菊地 潤(公益・広報委員長)

経営研修会のお知らせ

社員のモチベーションにお悩みではありませんか?せっかく入社した人材も、モチベーションが上がらなくては意味がありません。「要するに給料が上がればいいんでしょ?」とは、良く聞かれます。ただ、投資効果の最大化とコストの削減が儲けの源泉だとするならば、人件費も無尽蔵に掛けら

れるものではありません。しかし、もしちょっとの時間暇をかけるだけで、「求職者が増え」「チームワークが良くなり」「離職者が減る」としたら、ちょっと興味を惹かれますよね。

経営研修委員会では、28年度に3回の研修会を実施してきましたが、3月21日(火)、ヒトのモチベーションについて、徹底

的に皆さんと一緒に研究します。ぜひ、ご参加ください!

経営研修委員会 委員長 小池 重憲

◆人の育て方セミナーその2
「夢を叶える」で組織は変わる
日時 3月21日(火)16:00~18:50
会場 相模原法人会館3F



その悩み、解決の糸口見つかるかも? (6/14)



人材はハローワークで十分! (8/23)



お宅の求人広告、人が集まる魅せ方してる?セミナー (9/20)

法人会全国青年の集い旭川大会~記念講演「夢は、努力でかなえる」を聞いて H28年 9/8・9



法人会全国青年の集い旭川大会にて、今回はスキージャンプ葛西紀明氏の講演を聞いてきました。葛西選手は40代に入っても尚、ワールドカップやオリンピック等の大会で活躍を続ける姿から、北欧でレジェンドと呼ばれるようになり、日本でもその称号が定着している方です。

幼少の頃の葛西選手の家は貧しく、家には電話もなく、スーパーに借金して食料品を借りているような状態でした。そして幼い頃の葛西選手は体が弱く、鍛えるためにマラソンやクロスカントリーをしていたそうです。そんな頃、町にあったスキーのジャン

プ台で飛ぶことの楽しさを覚え、家に帰りスキージャンプをやりたいと言ったところ、だめだと言われてしまいました。スキーの板10万円、スキーウェア7万円、ヘルメット5万円を工面出来る経

済状態のはずがない事は子どもながらに

分かってはいました。しかし諦められず、同じ町出身の岡部選手のお下りの道具をもってスキージャンプを始めました。貧乏故のハングリー精神から、小学校中学校時代の大会では負けなだったそうです。
レジェンド①
葛西選手は中学3年生の時、テストジャンパーとして大倉山の大会で初めてラージヒルのジャンプ台を飛びました。昔はジャンプ台のガイドラインはテストジャンパーが何度も何度も繰り返し飛びことで溝を作っていたそうです。その大会で優勝した選手より、テス

トジャンパーだった葛西選手の方が記録が良かった事から、影の優勝者として新聞の一面を飾ったのがデビューだったそうです。
レジェンド②

先輩選手の秋元さんが地元の大倉山を練習場所としていた時に、葛西選手は憧れの人が来ていると喜び、一緒にジャンプをしていたそうです。その際に秋元さんが自身の所属チーム担当者に対し、「すごい中学生が居る、今からあいつに唾つけとけ」と言ってくれた事から、実は中学2年生の時点で就職先の内定をもらっていて、「高校を卒業するまでは絶対に誰にも言うな」と言われたことを忠実に守っていたそうです。

19歳でアルペールビルオリンピックに出場してからソチオリンピックまで7回連続冬季オリンピック出場を続けていて、最年長優勝、7大会連続出場、最年長メダリスト、で3つのギネス世界記録に認定されている葛西選手ですが、2014年ソチオリンピックで銀メダルを獲得した年には妹さんを亡くし、2016年1月に第一子を授かるも、その

直前にお母様を亡くされるなど辛い境遇の中でもジャンプ台から飛び続け、2016年1月31日にはワールドカップ最多出場、ノルディックスキー世界選手権最多出場の2つが新たにギネス世界記録に認定され、合計5つのギネス記録ホルダーとなりました。次の平昌オリンピックで引退を考えていたそう

ですが、東京オリンピックが開催されることとなり、自国開催だった長野オリンピックに出場出来なかった悔しさから、いつか旭川でオリンピックが開催されるまでは選手として出場したい、と新たな目標を目指して努力を続ける気持ちになったそうです。そしてもう一つの夢が、金メダルを取り、現在所属して

いる土屋ホームでレジェンドモデルのマイホームを建てることだそうです。

葛西選手の講演会は、先輩でライバルの原田選手をネタにする小話が盛りだくさんで、妹さんやお母様の悲しく辛い話がありながらも、終始とても楽しい講演会でした。

副部会長 佐藤 俊太郎

署長を囲む座談会

H28年 10/26

平成28年10月26日、毎年この時期恒例となっている、「署長を囲む座談会」を相模原法人会館で開催致しました。この事業は、女性部会、源泉部会、青年部会の共同で実施され、第1部として、相模原税務署署長を講師としてお迎えして行われる研修会、第2部には、税務署幹部の方々和法人会員との交流会が行われました。

この日の研修会では、テーマを「お酒から見る日本人のルーツ」とした高橋 博良署長による講話をお聞きし、お酒と人間との関

わりのお話しでは、酒の始まりは、サルが木の洞に貯め込んだ果実が自然発酵によって酒になり、それを古代人が飲んだことが起源とされていることや、酒の種類、酒に強い人弱い人について、また、酒税についてのお話しで、楽しく見識の広がる時間を持つことが出来ました。その後の懇親会は、食事をしながらの会話で和やかな雰囲気の後、青年部会で実施している税金体操を披露し、会場に笑顔溢れる会となりました。

毎年楽しみにされている方が多い有

意義で楽しめる事業です。

租税教育委員会 委員長 伊藤 由樹



交流事業(大谷資料館見学)

H28年 7/5



去る7月5日に交流委員会事業として、栃木県宇都宮市にあります大谷資料館に見学に行ってきました。OBの方やご家族・

ご友人を含めて19名の方々に参加して頂きました。

大谷石は耐火性や施工性に優れているため、古くから建材として使用されてきたそうで、資料館内には地下の採掘場跡があり、深いところでは地下60メートルもあるという巨大な坑内は平均気温8℃ということで、そこは大変幻想的な空間でありました。今回の交流会は、そのほとんどがバスの車内で過ごしたため、車内役員会を行ったり、

お酒を交えて意見交換を行ったりと、十分に懇親を深めてもらえたのではないかと感じております。

私達交流委員会メンバーとしては、道中至らなかつた点も多々あったかと思いますが、今回の課題を検証し、次回以降に繋げていけたらと考えております。最後に参加された方々におかれましては、最後までお付き合い頂きありがとうございました。

交流委員会 副委員長 菊永 雅

おもしろカレッジ(沼田城址・歴史探索)

H28年 10/18

平成28年10月18日、おもしろカレッジを開催いたしました。今回のおもしろカレッジは、沼田城址公園、真田丸展、世界一おいしいバームクーヘンの榎の木、世界遺産富岡製糸場、こんにゃくパークに行きました。平日のお忙しい中、21名もの方にご参加頂き、大変にぎやかなものになりました。

初めに沼田城址公園で、プラタモリにもご出演されて、沼田の歴史にお詳しい、沼田市教育委員会教育部部長 高山正様に、沼田公園内を散策しながらご講演頂きました。高山様の分かりやすい講演と真田

丸の光景が重なり、沼田市の歴史を再確認することができ、感激いたしました。

世界一おいしいバームクーヘンの榎の木、世界遺産富岡製糸場、こんにゃくパークを散策ながら、旧津久井との共通点も沢山あると感じました。前回のおもしろカレッジで散策しました緑区城山にある津久井城跡も、沼田城址公園と同様に城はなく、公園として地元の方々に親しまれています。そして旧津久井も、歴史・観光資源が沢山あります。



今回のおもしろカレッジでは、津久井の観光産業にはまだまだ可能性がある、そんな事が考えられる貴重な経験ができました。地域社会研修委員会 委員長 尾崎 勲

第23回 チャリティゴルフ大会・寄付金寄贈式

H28年 10/24・12/12

今大会で23回目となる「チャリティゴルフ大会」を、相模原ゴルフクラブにおいて10月24日に開催致しました。秋の恒例行事であるこのゴルフ大会は、相模原商工会議所との共催で、各青年部会が中心となって両会の親睦が更に深まるよう企画運営を行っております。今回は相模原商工会議所主幹での開催で、天気にも恵まれ、プレーをされた皆様も気持ち良く一日を過ごされたのではないのではないかと思います。我々、法人会青年部会は相模原商工会議所青

年部と一緒に受付から表彰式まで設営のお手伝いをさせて頂きました。また、今大会は両会合せて56組・218名と多数のご参加を頂き、事故やケガの報告もなく無事に終了する事が出来ました。

何より、スムーズな運営が行えたのは、朝早くからの準備設営から運営まで、商工会議所青年部をはじめとする関係者の皆様の多大なる御協力のお陰であり、また、ご協賛を快くお引受け頂きました企業の皆様のおかげで沢山の賞品が揃い、華やかな表

彰式が行うことが出来ました。この場をお借りしまして、皆様に御礼申し上げます。

最後になりますが、皆様から頂きました温かいお気持ちを「寄付金寄贈式」という形で、社会福祉法人 相模原社会福祉協議会、相模原市役所において、相模原商工会議所青年部の山口会長と、法人会青年部会からは関戸副会長と私で、12月12日に無事に以下の通り終えられましたことをご報告致します。

- ・相模原市頑張り大船渡銀河連邦応援金 13,334円(法人会のみ金額)
- ・熊本地震被災地義援金 13,333円(法人会のみ金額)
- ・相模原市社会福祉協議会 13,333円(法人会のみ金額)

皆様のご参加と温かいお気持ちを感謝申し上げます。

公益・広報委員会 委員長 菊地 潤



チャリティーゴルフ大会 (10/24)



相模原市社会福祉協議会での寄贈 (12/12)

県連青年部会情報交換会

H28年 11/2

平成28年11月2日、昨年度に引き続き、青部会連絡協議会「情報交換会」がホテル横浜ガーデンで県下18単位会から総勢167名が一堂に会し開催されました。

第一部は「税の使われ方への提言」というテーマで、テーブルディスカッションが行われました。社会保障に関する年金、医療、介護・福祉、子ども・教育を中心に意見の出し合いをしていく中で、少子化問題や、将

来の子どもたちの為に何が出来るかなどを考えました。今後もこのような情報交換会を開催することで、税への意識を高めていくことができるでしょう。第二部は交流会で、多くのメンバーが県内の青年部会メンバーと交流を深めました。

この様な場で違う単位会の仲間と交流することで仲間の輪を広げられるのも、青年部会の魅力の一つです。 部会長 林 大介



新年会

H29年 1/24



青年部会の新年会を、平成29年1月24日に開催致しました。平日にも関わらずOB

の方々、青年部会員の皆様、たくさんの方にご出席頂き、とてもにぎやかで楽しい時間を過ごすことが出来ました。委員会の枠を超えて、アトラクションを考え実行して頂いた才川総務副委員長、進行やお手伝いをして頂いた方々には大変感謝しております。また、予算も厳しい中、会場を提供して頂きました敦煌様にも御礼申し上げます。

早いもので交流委員長の大役を受けさ

せて頂いてから2年が経とうとしています。右も左も分からないまま2年間のイベントをこなしてきましたが、反省点も多々ある中、皆様と楽しめたことは、とても良い勉強と財産になりました。

今後も皆様と楽しく、この会を盛り上げていけたら幸いと思っております。ありがとうございました。

交流委員会 委員長 松田 桂吾

租税教育活動報告

青年部会では、小中学生に対して税の知識を普及する活動として、租税教育活動を実施しています。この活動は、市内の小学校に講師として伺い、税について知ることが出来る授業を行う租税教室や、祭り会場や参加者が集まる場所などで、紙芝居や税金クイズ等を実施するといった内容で、相模原税務署の協力を得て行っております。

小学校で行う租税教室は、国税庁で作成された租税教育用学習プログラムがあり、シナリオに沿った話と、税について描かれたビデオアニメを見ることで、事業の目的である「租税の意義や役割を正しく理解する」ことができます。青年部会では、平成25年度よりこの租税教室を、市内の小学校で主に1月と2月に実施してまいりました。

租税教室以外にも、これまで税に関する紙芝居や税金クイズ等を行い、租税教育活動を実施してきましたが、青年部会独自の租税教育プログラムを開発しようという事で、昨年は本格的にプログラムの作成を行い、ちょっとカッコいい、音楽に合わせて子ども達が体を動かしながら税金について知り、考えることができるプログラムを作ろうという事で「ワクワク!! 税金体操



第一」という体操を考案しました。この税金体操は、最初に実施した津久井湖湖上祭においても、家族や友達同士で楽しく踊りながら参加出来るプログラムとして、延べ300名以上の参加者の皆様に好評を頂くことができました。この税金体操は今後も青年部会の柱となる活動として、部会員みんなで育てていきたいです。

租税教育委員会 委員長 伊藤 由樹



つくい湖 湖上祭

H28年 11/20



平成28年11月20日、津久井湖水の苑地にて、第二回つくい湖湖上祭が開催され、実行委員として参画してきました。昨年

同様「税金クイズ、1億円を持ってみよう」の他に、「税金体操を一緒にしよう」を行いました。

伊藤委員長をはじめとする租税教育委員会の皆様と、青年部会員の皆様のご協力のもと、沢山の地域の方と汗だくになりながら税金体操をすることができました。開催前は正直なところ、一緒に踊って頂けるか不安でしたが、300個用意した景品もあったという間になくなり、大変ご好評頂きました。

地域社会研修委員会として行いました税金クイズは、残念ながらご参加頂いた方は昨年の半分程度になってしまいました。

この反省点も含め、しっかりと次年度の委員会に引継ぎ、法人会青年部会として「税知識の普及、納税意識の高揚」「小学生にターゲットを絞った当会のオリジナルプログラム」を確立できるものとしていきたいと思います。

地域社会研修委員会 委員長 尾崎 勲

瓦版せしやんぶ 編集部員後記

青年部会員のちょっとしたリフレッシュ法や趣味などを紹介します♪

～編集部員・清仁先輩の独り言～

私は介護の仕事をしているからか、日常的に「認知症」という言葉をよく耳にします。皆様は認知症の症状を知っていますか？

介護保険が始まる前は、痴ほう症・ボケ等と言った言葉で表現されていた症状でした。しかし、この認知症の症状等は一つではなく、色々なタイプや事由から起こっているのです。病氣・事故・年齢から、認知症になるきっかけは多々あります。と言うことは、今これを読んで頂いている方も可能性としては「0」ではなく、まるで風邪をひくように誰でもなる可能性があるのです。中には毛嫌いする人もいますが、それは自分がな

るのが怖いからかもしれません。では、私たちは只それを受け入れるしかないのでしょうか?答えはNO。普段から運動や脳に刺激等を適度与えていると、認知症になりにくいとも言われています。それでも、なるときはなる。ならば、あなた自身も家族も当然、私も…。認知症になっても皆様が、安心して暮らすことができる街をつくれれば、素晴らしいと考えております。

私は、法人会活動以外にも社会貢献として、様々な団体に所属し活動しています。その中の一つに「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をテーマに活動している団体があり、このまちづくりに向かって仲良く活動するのは刺

激もあり、楽しいものです♪皆様も法人会活動で沢山の「学び・気づき」に触れることが出来、沢山の仲間に出逢うことが出来ると思います。とにかく、無理せず楽しく仲良く出来ることから始めてみませんか?

最後に「編集部員・清仁先輩の独り言」は、第48号をもって最終回となります。お付き合い頂きありがとうございました!また、何処かでお会いしましょう♪

公益・広報委員会 副委員長 佐藤 清仁

